

世界遺産

アンコール王朝史の研究において、日本とカンボジアを結んで半世紀。

総合
監修

アンコール遺跡国際調査団・団長

石澤良昭



2020

アンコール遺跡

C A M B O D I A



PHOTO: 三輪 悟 上智大学特任助教



上智大学アンコール遺跡国際調査団 (1979年からのソフィア・ミッション)

ソフィア・ミッションの哲学は、カンボジア人によるカンボジアのためのカンボジアの遺跡保存修復です。

アンコール・ワット (1113年~1150年頃/スーリヤヴァルマン2世)

12世紀前半にスーリヤヴァルマン2世が建造。アンコール・ワットとは「寺院のある都」の意味で、境内には高床の家宅が街路に沿ってひしめき、騒然とした居住街をつくっていた。クメール人によって造営された世界最大級の国家鎮護の寺院。15世紀に王朝が崩壊するとともに密林の奥深くに忘れ去られてしまった。その後仏教寺院に改修され、近隣の篤信者たちが訪れていた。クメール民族の象徴としてのアンコール・ワットは、高さ65メートルの中央祠堂が聳え、紙一枚も通さないほどの精巧な石積み加工である。約900年を経てもその荘厳な威容は多くの人を感嘆させる。

ANGKOR CALENDAR 2020 By SOPHIA UNIVERSITY Angkor International Mission カレンダーの収益金の一部は、人類の至宝・アンコール大遺跡群の保全活動に役立てられます。